

私は教育実習の3週間で大学には経験できないような経験をたくさんすることができた。

授業は実習の4日目からさせていただき、国語科だけではなく、道徳の授業も含め、他と比べるとかなり多くの授業経験を積ませてもらうことができた。大学の模擬授業とは異なって、実際に本当の生徒に授業をする度に模擬授業では得ることができない気付きや学びがあった。実際に授業を道徳でしたのは初めてで、1回だけであったが、今後の良い経験になった。その学びや気付きは、指導教諭の先生は勿論、研究授業以外の授業でも他の先生方も授業を見に来て下さり、アドバイスを下さったことで様々な視点から多くの貴重な意見を聞くことができたおかげだと思う。私の授業だけでなく、本当の先生方同士で普段の授業を見合って意見交換をし合う週間が設けられており、授業の質を少しでも上げる努力を学校全体で行っておられたのが非常に素晴らしいと思った。

教科指導以外の面でも実習中、たくさんの貴重な経験をさせていただいた。実習の最初の週末に行われた運動会では、それに至るまでの準備や会議にも参加させていただき、生徒として学校に在籍していた時には分からなかった行事運営の様子を学ぶことができた。また、市が取り組んでいる小中一貫教育に関する中学校の校区内の幼稚園と小学校の先生方との全大会、意見交換会にも見学という形で参加させていただいた。その会では、中1ギャップをできる限り軽減しようとする小中の先生方、学校の工夫に触れることができた。実習とはいえ、なかなか経験させてもらえないような事も経験させていただき、本当に感謝している。この経験が現場で生きるように頑張りたい。

そして、実習前に最も大切だと言われることが多かった生徒とのコミュニケーションに関しては私は比較的上手くやれたと感じている。正直に言えば、私に生徒のみんなが本当に積極的に話し掛けてくれたりして、救われたという方が正しいかもしれないが。私は上記のように多くの授業をさせていただいた中で、他の学校と比べると寝たり、うるさかったりということは圧倒的に少ない学校であったが、それでも授業に集中できていないなと感じた生徒とは特にコミュニケーションを取って仲良くなれるように努めた。最初は自分もその生徒の扱いが分からなかったが、コミュニケーションを取るうちに例えばなぜ眠いのか等の理解ができ、お互いに信頼関係も少しずつ築けてきて、最後には向こうから休み時間に話しに来てくれるようになったし、授業にもちゃんと取り組んでくれるようになった。1つ悔いが残るとすれば、私は授業で中2の3クラスを担当したのだが、自分のホームルームクラスの生徒の名前は覚えられたが、あとの2クラスの生徒の名前を覚えきることができなかったことである。授業で生徒を指名する際に顔を見てすぐに名前を指名してあげることができればもっと信頼が築けたのではと思った。